

吉植庄亮

よしのぶ しょうりやう

歌人。明治十七年四月二十日葉縣生れ。昭和二十

二年十一月七日歿（八四—九五）。號愛劍。大正五年東京帝國大學法

科大學經濟部卒。十五年印旛沼周邊の開墾事業に従事。昭和十一年衆

議院議員（當選二回）。短歌は明治二十六年金子董園中心の白菊會創

設に參加。大正十一年歌誌『楳嶺』創刊主宰、十二年『日光』創刊同

人。

著書、金子董園著『冷人』（附『白菊會詠草』合著、明治二十九年四

月十日短歌研究会）、『寂光』（大正十年四月二十日短歌研究会『楳嶺

叢書』（二十二年版『年刊歌集』（大正十一年度）』（共編、大正十二年十月一

日關根書店）、歌集『煙霞集』（昭和二年六月二十日紅玉堂書店『新

歌集叢書』（、『大陸巡遊吟』（昭和十四年六月十九日改造社）、『馬

の散歩』（昭和十四年九月二十日初田書店）、歌集『聞聲』（昭和十

六年一月一日甲爲書林。特製本）、隨筆『米の貌』（昭和十七年一月

十五日初田書店）、『結城牧秋歌集』（編、昭和十七年二月五日甲爲

書林）、『大棲威』（昭和十七年二月八日八雲書林）、『米談義』

（昭和十七年五月十五日實業之日本社）、歌集『海嶽』（昭和十七年

八月二十日八雲書林『新作短歌』（、『聖戰短歌選』（川田 順）

評・白米放送協會編、昭和十七年九月十五日日本放送出版協會『ラジ

オ新書』（、『千鶴觀察録』（合著・上野費一編、昭和十七年十月九

日札幌・北海道協會）、歌集『風景』（昭和十八

年一月十日奈良・大理時報社）、『定本愛國白人

一首解説』（合著・日本文學報國會編、昭和十八



年三月二十五日毎日新聞社）、隨筆『雨耕抄』（昭和十九年三月二十

「白詩代社」、『光の如し』（昭和十九年四月）、「白金屋堂」、『松  
の花粉』（昭和二十年十一月）、「白八重書房」『新日本歌集』（、 四百  
姓記』（昭和二十一年二月）、「五百大日本雄辯會講談社」、歌集『霜  
のやま』（昭和二十二年七月）、「白白玉書房」『橄欖叢書』（、 四百  
植庄亮全歌集』（吉植庄亮全歌集刊行會編、昭和四十五年九月）、「白  
柏葉書院、橄欖社（亮）等。

吉植庄亮全歌集

柏葉書院